

令和 7 年度 県立 境 高等学校 自己評価表

目指す 学校像	本校伝統の文武不岐の教育方針の下、豊かな人間性を培い、深い知性と逞しい心身を養うとともに、自主自立を涵養し、グローバル人材〔地球規模で考え、地域に貢献できる人材〕を育成する学校づくりを行う。 (1)「生きる力」を身につけ、生涯にわたって学び続けるための基礎基本を身に付けさせる学校 (2)進路指導を充実し未来を切り拓く力を育成しながら、幅広い希望進路を実現させる学校 (3)規律を遵守する精神と望ましい生活習慣を確立させる学校 (4)保護者・同窓会・地域と連携して生徒の健全育成に努める学校 (5)グローバル人材の素地となるスキルと感性を培う学校			
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
令和6年度の進路状況は、大学・短大への進学が約68%、専門学校（看護系含む）が約19%、就職・公務員が約9%、進学準備等が約4%であった。本校生徒の進路希望は、国公立・私立大学の進学を始め、専門学校や就職・公務員の希望など多岐にわたる。 また、その選抜方法である総合型・学校推薦型選抜でも学力試験を課す場合や、国公立大学および難関校を志望している生徒もあり、基礎学力の定着・向上がますます重要になってきている。その上で、明確な志望動機や自己の活動実績等を適切に言語化する力も、進学・就職を問わず必要である。入学時からの学習習慣を確立させるとともに、生徒一人一人のよりよい進路実現に向け、きめ細やかな進路指導が求められている。 一方部活動においては、多くの部が熱心に活動し、部加入率は70%を超えており、高校生活に活気をもたらした。なかでも、弓道部が全国大会に出場するなど、周囲の耳目を集めた。今後も継続して部活動の発展に尽力したい。 生徒指導に関しては、マナーアップ週間を毎月設けて服装容儀指導の強化や交通ルール等の規範意識の向上に努めている。今後も自転車・バイク通学者の違反・事故の未然防止に指導に力を入れていく。	1 「常に考える」生徒の育成	① 授業の工夫・改善に努め、読解力と思考力を育み能動的に学ぶ力を養う指導に取り組む。 ② チャイム着席を励行し、授業時間の確保に努める。 ③ 各教科の授業研究(授業公開等も含む)及び相互授業参観を積極的に推進する。 ④ 学習評価を研究するとともに、効果的な教育課程編成を進める。	B	
	2 授業改善の推進	⑤ 授業改善等により、生徒による授業評価の授業満足度が3.4を目指す(1～4の4段階で評価し、4が最高評価)。	B	
	3 初志貫徹の進路設計・進路実現	⑥ 進路情報の収集と適切・的確な提供をしつつ、効果的な進路指導に努める。 ⑦ 大学等と積極的に連携し進路意識の高揚を図る。 ⑧ キャリア教育の充実を図り、自己理解の深化と早期の目標設定ができることを目指す。 ⑨ 面談等を通して生徒の志望と個性・特性を見極めた適切な進路指導に努める。	B	
	4 正しい生活習慣の確立	⑩ 基本的生活習慣の涵養に努める。 ⑪ 服装・頭髪・容儀指導に努め、「さわやかマナーアップ事業」を推進する。 ⑫ 個別面談や教育相談を通じて生徒理解に努め、生徒との信頼関係構築に努める。 ⑬ いじめ等の未然防止と早期解決を図るための指導を行う。	A	
	5 学校生活の充実と「豊かな心」の育成	⑭ 健康教育の推進に努め、心身の健康及び安全の維持・増進を図る。 ⑮ 生徒会活動・部活動及び各種ボランティア活動など生徒の自主的・自発的な行動を積極的に支援し、キャリア・パスポートを活用して、活動の振り返りや、改善に資する。また、それらの活動を通して、生徒のコミュニケーション能力を育む。 ⑯ 運動部活動・文化部活動の振興を図り、部活動参加者等に配慮した学習環境の整備に努める。 ⑰ 読書活動を積極的に推進し豊かな人間性を培う。	B	
	6 地域に信頼される学校づくり	⑱ P T A活動を充実させ、家庭教育の重要性の理解・啓発に努める。 ⑲ 保護者や地域住民等への授業公開を積極的に推進する。 ⑳ 近隣中学校や地域への広報活動及び連携強化を図る。 ㉑ 近隣小学校・中学校等への学習支援活動に積極的に取り組む。	A	
	7 学校の働き方改革	㉒ 多岐にわたる業務の精選、組織化に取り組み、超過勤務時間縮減に努める。	B	

三つの方針		具体的目標		評価		次年度への主な課題	
「三つの 方針」 (スクール ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に 関する方針」 (グラデュエーション・ポリシ ー)	○境高校「5つのモットー」 1 予測困難な時代を生き抜く生徒 2 自己の未来を切り拓く生徒 3 規律を遵守し、規則正しい生活を送る生徒 4 豊かなコミュニケーション能力を身に付けた生徒 5 世界や地域の課題を、協働しながら自らの力で解決する生徒		B	B	・人間力向上への取り組みについて、具体的手立 てを検討していく。	
	「教育課程の編成及び実施に 関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○境高校「5つの柱」 1 キャリア教育の推進 2 英語教育の充実 3 基礎学力の向上 4 進路指導の充実 5 学力・適性等に応じた指導		A		・基礎学力の向上につい て、教科内だけでなく、 学校全体で検討していく 取り組みが必要。	
	「入学者の受入れに関する方 針」 (アドミッション・ポリシー)	○境高校「4つの心」 1 「誠実」何事にも誠実に向きあう生徒 2 「剛健」文武不岐の精神を有する、剛健な生徒 3 「協心」仲間と一緒に協働しようとする生徒 4 「力行」日々努力し、自ら未来を切り拓く生徒		B		・学校説明会だけでな く、部活動やボランティ ア活動などの場におい ても本校の教育活動を周知 していく。	
評価項目	具体的目標	具体的方策					
教科指導 (教務)	授業時間の確保	チャイム着席を励行し、授業時間の確保に努める。 ①②		B	B	・授業における曜日調整と 同一日のコマ数の調整を行 い、定期考査までの授業回 数の均等化をする。 ・授業方法や成績評価に関 する研修を企画する。 ・生徒が意欲的に学習に向 き合えるよう授業の工夫・ 改善を図る。	
		定期考査・学校行事等に伴う授業日数の曜日に 関しての不均衡を是正するよう配慮する。 ②		B			
		行事を見直し、授業時間確保に努める。 ②②①		A			
	特色ある教育課程の編成と運 営および学力の向上	生徒に身に付けさせたい能力などを明確にし、 生徒の多様な進路に応じた教育課程を編成する。 ④		B			
		「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して 授業改善を推進し、生徒の思考力・判断力・表現力等 の育成を図る。 ①③		B			
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	小テスト・課題プリントなどを通じて学習の理解 度を把握し、不十分な生徒には補習等を施し、基礎 学力の向上及び定着を図る。 ①	A	B	・図書部との連携を 強化し、読書活動を 推進していく。 ・教科内での授業研 究の機会を増やす。	
			生涯を通じて学ぶことの大切さ・基礎基本を身 につけさせ、図書部と連携を図って読書活動を推し 進めていく。 ⑰	B			
		家庭学習習慣の定着に努めると ともに実践的な力を養う。	課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣を身に つけさせる。 ①	A			
			課外授業を実施し、さまざまな進路に対応できる 実践的な力を養う。 ①	B			
		授業改善を推進する。	ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学び を深め、生徒による授業評価の授業満足度を昨年 度より高める。 ③⑤	B			
		分かる授業を展開するために改 善に努める。	教科内での授業研究や、各種研究会への積極的な 参加を通して、授業内容や方法の改善に努める。 ①③④				B
			副教材やタブレット等を活用し、わかりやすい授 業を展開し、生徒による授業評価の授業満足度が 3.4になるよう目指す。 ⑤				B

教科	地歴公民	わかりやすい授業の展開を工夫する。	副教材、その他の資料を活用し、生徒が具体的なイメージを持ちやすい授業となるよう改善に取り組む。 ①③⑤	B	B	・単位数の少ない授業でいかに教科書を終わらせるか、授業の工夫もしくはカリキュラムの検討。 ・様々な生徒に対応するため教材や指導方法の工夫。
		基礎学力の着実な定着をはかる。	小テストや課題を実施し、新しい知識や考え方の定着をはかる。 ④	A		
		授業改善を推進する。	ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学びを深め、生徒による授業評価の授業満足度を昨年度より高める。 ③⑤	B		
		実践的な力を養う。	模擬試験等を有効活用し、大学進学に対応できる実践的な力を養うと共に、社会問題に対する関心を高めることを目指す。 ④⑧	B		
教科	数学	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図るとともに、授業や評価の工夫に努める。	学習に対する意識や基礎学力を正確に把握し、個々に応じ適切に指導する。 ①	B	B	・数学の学力低下が見られ、上下の差がますます開いてきている。中学校内容の復習を行う等の学び直しの時間が必要。 ・夏の課外は、例年より日数を少なくした結果、教員生徒ともに最後までモチベーションを維持して終えることができた。
			双方向型の授業や ICT 端末等を活用するなど、教科指導の工夫により、わかる授業を展開し、授業満足度が 3.4 を目指す。 ①⑤	B		
			教材や授業活動の工夫、評価法などを教科内で意見交換する機会を増やす。 ③④	B		
		事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを活用する態度を育てる。	数学的な見方や考え方の良さが実感できるような教材の精選と授業内容の工夫・改善を図る。 ①	B		
			課外授業で問題演習の時間を多くとり、高度な数学の技術を身に付けさせる。 ③	A		
		授業改善を推進する。	各種研修会に積極的に参加したり、大学入学共通テストに向けての問題を教科会で発表したりすることで、自己研鑽に努める。 ③	B		
教科	理科	基礎学力の向上を図るとともに、特に理系コースの進学に対応した指導を目指す。	ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学びを深め、生徒による授業評価の授業満足度を昨年度より高める。 ③⑤	B	B	・様々な学力の生徒に対応するため教材や指導方法の更なる工夫が必要。 ・年内入試対策（口頭試問等）として従来の課外以外の進学指導が必要。 ・生徒の興味関心を高めるために、実験や実習を計画的かつ効果的に実施していく。
			定期的な小テスト等により、生徒の理解度を把握することに努め、不十分な生徒へは補習等を実施する。 ①	B		
		興味・関心を持てる授業に努める。	課外等で大学進学に十分対応した学力を身につけさせる。 ①	B		
			教材や授業内容・指導方法について教科内で定期的に研究協議する。特に ICT 端末等を利用した指導を積極的に行い、生徒による授業評価の授業満足度が 3.4 を目指す。 ③⑤	A		
		授業改善を推進する。	各種研修会に参加し、教科内で内容を共有するとともに自己研鑽に努める。 ③	B		
			ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学びを深め、生徒による授業評価の授業満足度を昨年度より高める。 ③⑤	A		
教科	保健体育	実験実習を取り込み、授業理解の手助けをする。	実験実習を計画的に実施し、授業内容の理解を深める。実験内容・方法について教科内で検討し、改善を加えていく。 ①④	A	A	・体育における ICT 活用の進化とアナログ的な活用のバランスを考えながら生きる力を育む。 ・スポーツの楽しさを感じ、生徒が社会に出て生きていく力の体力や健康の保持増進の資質向上を
		健康・安全についての理解を深めさせ、自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。	生活習慣、喫煙・飲酒、薬物、交通事故、性行動、環境問題、福祉問題、がん、精神疾患、感染症などについて、より身近な問題として実感できるような教材(インターネットの活用・時事問題等)を提供することによって、自己や周囲を取り巻く健康問題について考える力をつけさせる。 ①④⑬	A		
		授業改善を推進する。	ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学びを深め、生徒による授業評価の授業満足度を昨年度より高める。 ③⑤	B		
		生徒の基礎体力の向上を図る。	体ほぐし運動・体づくり運動を積極的に取り入れることにより、基礎体力の向上を図る。 ①②⑬	B		
		生徒が運動・スポーツの楽しさや飲	いろいろな種目を体験させることにより、「マイ・スポーツ」の獲得を実現させる。 ①	A		

		びを実感できる授業展開に努める。	クラスマッチと関連させ、チームの編成や役割分担、勝つための練習の工夫など自立した取り組みへの支援を行うことで、生徒により質の高い競技会を体験させる。 ①④	A		引き続き取り組む。
教科	芸術	主体的な表現活動に重点を置き、基本的知識・技能の定着を図る。	体験的な活動を継続的に授業に取り入れることで、幅広い領域における表現活動の質を高められるように ①④	A	A	・今年度は授業研究を丁寧に行い、授業の質を向上させようと努めた。来年度も継続していきたい。 ・学校生活全般における芸術科ならではの貢献について教員同士で理解を深め、生徒が芸術の学びによる恩恵をこれまで以上に受けられるようにする。
		評価基準の設定方法を工夫、生徒固有のよさが反映される客観的評価の方法を追求する。	ポートフォリオや自由記述などを活用して、生徒一人一人の学びの履歴を捉える手立てを充実させることにより、生徒の学びがどのように評価基準に達成しているのか、生徒自身にとってわかりやすい観点別評価を実施する。指導と評価の一体化を目指し、生徒の表現意欲や表現能力を引き出すための工夫と評価基準の設定をする。 ①④	A		
		授業研究を推進する。	題材の特性に応じた ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学びを豊かにし、生徒による授業評価の授業満足度を高められるようにする。 ①③④⑤	B		
		生徒の実態にあった教材の精選や指導法、授業展開方法を開発する。	生徒の表現意欲を高める授業展開を探究するとともに、生徒が高い意欲・興味・関心を持って授業に取り組むことができる教材の精選や作成をする。 ①④⑤	A		
教科	英語	基礎学力の定着を図る。	小テスト、ノートチェック等を利用して学習の理解度を把握し、個々の生徒に応じた指導を行う。 ①③	A	A	・学年間での指導方針にバラつきがあり、明確な方向性やビジョンが共有できていない。境高校の英語科としてどのような指導をすべきかを構築する必要がある。 ・学力の二極化が進んでおり、上位層を伸ばすための指導が不十分である。生徒の学力レベルに応じた指導ができるよう、授業の実施方法の検討が必要である。
			学習内容の定着のために、教材を精選し、授業内容の工夫・改善を図る ①②	B		
			ICT 端末等を積極的に利用し、4 技能に対応する基礎的な力を身につけさせる。 ①	A		
		家庭学習習慣の確立に努める	担任との連携を含め、週間課題等を利用して、家庭学習時間を確保するための指導を徹底する。 ③	A		
		授業改善を推進する。	ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学びを深め、生徒による授業評価の授業満足度を昨年度より高める。 ③⑤	A		
		生徒の習熟度に応じて、より高度な英語力の育成を目指す	課外などを利用し、徹底した問題演習により、上・中位層の増加を図る。 ①	B		
			実用英語検定試験受験などを契機に、資格試験に前向きに取り組ませるとともに、英語学習へのモチベーションを高める。 ①③	A		
			A L T を積極的に活用し、コミュニケーション能力を高めるとともに、異文化への興味・関心を深める。 ②	A		
教科	家庭	授業改善を推進する。	ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学びを深め、生徒による授業評価の授業満足度を昨年度より高める。 ③⑤	A	A	・多様な生徒に対応するとともに、感染症対策を徹底した調理実習の献立を検討する。 ・「生活者」として自立を促せるような教材を考える。
		「生活者」としての自立を目指し、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身につけさせる。	定期考査・実技・小テストにより、理解・定着度を把握し、不十分な生徒には補習を実施する。 ①	B		
			学習したことを日常生活に生かせるような課題やホームプロジェクトの実践をさせる。 ①	B		
			授業のワークシート・課題レポートを定期的に点検する。 ①	A		
		実験・実習を中心とした授業を展開し、男女が協力して家庭生活の充実に向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	授業で理解した知識を元に協力して実験・実習に参加できるよう指導方法を工夫する。 ①④	A		
			常に生徒の興味・関心を高めるような教材作りを心掛ける。 ①	A		
			指導方法の工夫を図るため各種研修会に参加し、様々な角度から自己研鑽に努める ③	B		

教科	情報	課題や目的に応じて情報手段を適切に活用できる様にする	様々な情報手段の中から、直面する課題や目的に適した情報手段を主体的に選ぶことができるようになる。 ①③⑦	B	B	・情報の手段が格段に広がり、時代の趨勢に追いつくために、幅広い実習が必要。 ・ICT 機器をよりよく使うために、最先端の機器を準備する必要がある。
		授業改善を推進する。	ICT 機器の活用を推進し、生徒の主体的な学びを深め、生徒による授業評価の授業満足度を昨年度より高め ③⑤	B		
		情報活用の基礎となる情報手段の特性を理解する	情報手段の特性を理解することにとどまらず、理解した情報手段の特性を踏まえて情報手段を適切に選択し活用できる。	B		
			情報や情報手段をよりよく活用するために、情報そのものについて理解を深めるとともに、問題解決の手順と結果の評価及び情報を表現するための技法、人間の知覚、記憶、思考などの特性などについて基礎的な理論を理解し、方法を習得する。 ①③⑦	B		
		社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解する Society 5.0 を目指して、4.0 を乗り越える改革を行う。	社会を情報や情報技術の視点から捉えることにより、情報化の「光」と「影」の両面から情報社会についての理解を深めていく。 ①③⑨⑫ ICT 機器の活用で、VR 体験を充実させ、実感を持って現実社会の更新を具体化して能力を育み、個の力では解決できない事案については、グループで立ち向かう姿勢を育む。 ④⑤	B		

教務	校内の連携と教育活動の円滑化	各学年・各部・各教科との緊密な連絡調整を図り、本校教育活動の円滑化に努める。①②③	B	B	・ICT の活用による更なる業務の効率化と授業改善を図る。 ・教科内、教科横断、教科以外の各種研修と授業改善の充実を図る。また、教科を越えた相互授業参観を積極的に実施する。
	校内諸データの整理・活用および広報活動	学校全体の教務関係データの管理及び活用を図る。③④	B		
		ホームページや学校案内等の充実をはかり、中学校・地域との連携を図る。⑱⑲⑳	A		
	校内研修の充実	教科を超えた相互授業参観等、教科研修その他教職員の各種研修の充実、推進を図る。①②③④	B		
	教育活動円滑化のための環境整備	教材・教具・各種備品等を常に活用できるよう、適切な整備、保持、管理に努める。特に ICT が活用できる環境作りに尽力する。①②	A		
生徒支援	基本的生活習慣の確立	マナーアップ事業と連携し、規範意識の昂揚に努める。⑩⑱	A	B	・生徒の服装容儀について教員間で相互理解の上、教員全体で指導を徹底する。 ・交通事故を減らす為、自転車や原付バイクの乗り方、交通ルールを認識させる機会を増やす。 ・アルバイトや原付バイクの許可条件など、学校説明会等で周知徹底する。
		マナーアップ週間を意識付けとして、服装容儀指導の徹底を図る。⑩⑪⑱	B		
		登校指導を通して、遅刻の防止・時間厳守の意識の向上に努める。⑩⑱	A		
		保護者との連携を密にし、協力して指導に当たる。⑱	A		
		いじめ未然防止に努める。⑫⑬	A		
	交通安全教育の推進	関係諸機関・団体と連携し、交通安全教育の徹底を図り、事故防止に努める。⑭	B		
		ホームルームや集会等を有効に活用し、交通ルール・マナーの徹底を図る。⑫⑭	B		
		自転車・バイク点検、安全運転講習会を実施し、危険予知・危険回避能力の向上に努める。⑫⑭	B		
	指導体制の確立	教職員の共通理解に基づく全校指導体制の確立を図る。②⑨⑪⑫㉔	B		
	進路指導	学習習慣の確立	家庭学習時間の確保。進路希望調査やスタディサポートを分析し、家庭学習時間の確保を呼びかける。①⑤		
キャリア教育の充実		LHRや総合的な探求の時間を中心に、将来を見据えた系統的なキャリア教育を実施する。⑥⑦⑧⑨	B		
		進路の方向性の早期決定を目指し、進路講演会や進路ガイダンス等を実施する。⑥⑦⑧⑨	B		
		各種進路情報及び資料を提供するとともに、進路室・閲覧室を開放し、進路相談に積極的に応じる。⑥⑦⑧⑨	A		

	進学指導の充実	1 学年から、平常・長期休業中の課外を実施し、入試に対応できる実力を養成する。	①③	B	B	し、日常的・継続的な学習習慣を確立させる。 ・各種ガイダンスや進路行事などの直接体験を通して、自己の進路イメージを確立させる。 ・3 年間を見通した進路計画表を作成する。
		模擬試験の成績データ等を分析し、進学指導にあたる。	⑤	A		
		蛭雪学習館・閲覧室を開放し、自学自習を支援する。	①	A		
		進学意識の高揚を目指し、積極的な個人面談の実施、個に応じたきめ細かな指導を行う。	⑧⑨	B		
		境高校の進学指導を蓄積し、進路実現につとめる。	⑥	B		
	就職指導の充実	企業見学会を実施し、労働の意義を考えさせる。	⑧	B		
		就職及び公務員試験合格に向け、履歴書の書き方や面接等の指導を行う。	⑧⑨	A		
	保護者への広報・啓発	面談資料を作成・配付する。保護者向け進路講演会の企画立案及び実施をする。	⑥⑬	A		
保健	心身の健康保持・増進	健康教育の推進と保健室の効果的な運営を図る。	⑬	A	A	・教育相談に関しては、その時の相談利用者数、相談内容等を鑑み、適切な利用時間などの設定等を引き続き対応していきたい。
		防災避難訓練等を通して、生徒の安全意識の高揚を図る。	⑬	A		
		担任や学年と連携を図り、心身の健康に不安のある生徒の把握と適切な指導等に努める。	⑪⑫⑬	B		
	学習環境の整備	教室等の清掃指導や清掃監督者の要望に応じた用具の補充・管理を行う。	⑬	A		
		空調機器使用に伴う教室内の温度・湿度・二酸化炭素濃度に留意し、環境の整備に努める。	⑬	B		
	委員会活動の支援	保健委員・整備委員を中心に、ボランティア活動の活性化と環境やモラルの向上に努める。	⑭	A		
特別活動	学校行事等を通した帰属意識・協調性の涵養	生徒を主体とした学校行事の企画・運営を行う。	⑭⑮	B	B	・キャリアパスポートの利用を促進する。
		文化祭・クラスマッチ等を通して、充実感や達成感を体験させ、責任感・クラスの連帯意識を養う。	⑭⑮	B		
	部活動の活発化	部活動の加入率 7 割を維持するとともに、活発化を図る。	⑭⑮⑯	B		
		キャリアパスポート等の積極的活用を促し、生徒の自主性・自発的な活動を支援する。	⑭⑮	B		
図書	図書館利用の推進	生徒の学習活動や教員の研修がよりよく進められるよう、図書館の整備に努める。	①③⑥⑧⑭	A	B	次年度も多くの生徒や先生方に利用していただけるよう、図書館の整備に努める。
		各教科の職員との連携を密にするとともに、生徒への利用指導の充実に努める。	①③⑭	B		
	図書委員会活動の活発化	読書会・カウンター当番活動や図書館のレイアウトの工夫等を通じ、利用促進の広報を行う。	⑮⑰	A		
	放送設備の整備・管理	放送・視聴覚機器の保全・管理を行い、積極的活用を図る。	⑮	B		
	放送委員会活動の活発化	集会時や文化祭、クラスマッチ等の放送機材の設置・操作に委員会生徒を積極的に活用する。	⑮	B		
渉外	P T A 行事の工夫	P T A 行事の実施方法・内容について検討し、参加した保護者への便宜を図る。	⑰	A	A	・社会の変化や時代に合わせて PTA 活動を考え、活動内容を見直す。 ・より多くの保護者が関心を持ち、参加できる活動内容を考える。
	P T A 活動の充実	保護者の参加意欲を喚起するような取り組みを計画する。	⑤⑰	A		
		支部研修会活動にも協力し、研修の成果を全体へ伝達する。	⑰	B		
	P T A 活動を通して家庭・地域社会との連携を図る。	保護者・職員間の情報交換を行い、共通理解のもとに、協力体制を確立する。	⑨⑩⑰	A		

1 年	基本的生活習慣の確立	校内オリエンテーション・HR活動・集会等を通して、規律を守る大切さを教え、規範意識の昂揚に努める。 ⑩⑪	B	B	・基礎学力の向上。学力の二極化が進んでいるため、それぞれに応じた目標設定と指導。 ・学習習慣の確立。効果的な課題を提示し、日常的に学習をする工夫。 ・規範意識の低下が見られるので、生徒達を向き合い、学校生活に前向きに取り組む雰囲気の醸成。 ・進路に向けて、主体的に行動できるように、早めのアプローチをしていきたい。
		日常的な声かけや個別面談を通して、生徒個々に応じた指導に努める。 ⑨⑫	A		
		保護者との連絡を密にして、生徒が落ち着いた学校生活を送れるようにする。 ⑫⑬	B		
	学習習慣の確立、学力の向上	各教科の平常時の課題や長期休業時の課題の提出を徹底させ、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ①⑤	B		
		授業・HRなどで学習に臨む姿勢を意識させ、基礎学力の定着を図る。 ①②③	B		
		授業を基本とし、模擬試験・平常課外・長期休業中の課外などを通して、学力の向上を図る。 ①③⑤	B		
	充実した高校生活が送れるようにする	学校行事・HR活動を通し、集団への帰属意識や責任感を養うと共に、充実感や達成感を感じ取らせる。⑮	A		
		部活動や生徒会活動の参加を積極的に促し、心身ともに豊かな人間性を育む。 ⑮⑯	B		
2 年	基本的生活習慣の確立、生徒指導の継続・発展	規則正しい生活習慣を継続させ、規範意識の向上をめざす。HRや集会、修学旅行を通して、団体生活における規律を遵守させ、思いやりのある心の育成を図る。⑩⑪	B	B	・生徒指導案件が多発し、全体的になかなか落ち着かない1年だった。次年度に向けて、学校生活をしっかりと送ること、進路についてしっかり考えることを意識させたい。 ・学力の2極化がますます進んでしまった。低学力層への学習指導について工夫が必要。一方、上位者については一般選抜で戦えるように基礎学力をつけさせていきたい。 ・これまで準備してきたことを希望進路実現という形にしていきたい。
		日常的な声かけや個別面談、教育相談を通して生徒理解を深め、生徒個々に応じた指導に努める。⑨⑫	A		
		保護者との連携を密にして信頼関係の構築に努め、生徒が安全かつ安心できる学校生活を送れるような土台を作る。⑫⑬	B		
	学習習慣の確立、学力の向上、進路意識の向上	各種課題の提出を徹底させることで家庭学習の習慣を身に付けさせるとともに、授業・HRなどで学習に臨む姿勢を意識させることを通して、基礎学力の定着・確認を図る。①②③	B		
		授業を基本とし、定期考査、外部模試、朝学習、課外などを通して、学力の向上を図ると共に授業改善に努める。①③⑤	B		
	学校生活の充実、人間的な成長	キャリアガイダンス、探究活動などを通して、将来の職業観を育み、進路意識の向上を図る。⑥⑦⑧	A		
		修学旅行・文化祭・クラスマッチなどの学校行事に積極的に参加させ、集団への帰属意識や責任感を培うとともに、充実感や達成感を味わわせ、自己肯定感を高められるよう導く。⑭⑮	A		
3 年	基本的生活習慣の確立、生徒指導の継続・発展	規則正しい生活習慣を継続させ、規範意識の向上をめざす。HRや集会、修学旅行を通して、団体生活における規律を遵守させ、思いやりのある心の育成を図る。②⑩⑭	A	A	・進路先の年内入試の拡大に伴い、昨年度後半から年内入試を意識した指導を継続できた。結果は国公立3名、その他私大で多数の合格者を出すことができた。特に、第一志望として合格を勝ち取る生徒や、模試E判定からの合格もあった。ロマンがある。ただし、学力担保という点で不安がある。根の深いテーマだと思うが、現状の進路指導形態を持続可能にするために、学校全体で取り組む必要がある。 ・生徒指導面では、場面場面で効果的な手立てができた。
		日常的な声かけや個別面談、教育相談を通して生徒理解を深め、生徒個々に応じた指導に努める。⑨⑫⑬	A		
		保護者との連携を密にして信頼関係の構築に努め、生徒が安全かつ安心できる学校生活を送れるような土台を作る。⑫⑬⑲	A		
	学習習慣の確立、学力の向上、自己理解に沿った進路実現	基礎学力の向上を求めながら、それぞれの希望進路に即した対策の実施し、個々の伸長を図る。①⑤	B		
		自分の将来像をしっかりと考えさせ、納得した進路実現を目指す。⑥⑦⑧	A		
	学校生活の充実、人間的な成長	これまでの進路活動をふまえ、最高学年としての自覚を促すとともに、何事にも積極的に取り組める生徒の育成を図る。①⑥⑦	A		
		自分の進路決定はもちろん、学年全体のことを考えた行動をとれる生徒の育成を図る。⑧⑨	A		
		個々の目標に向かい、計画的に努力することのできる環境を構築していく。⑦⑧	B		

※評価基準 A：十分達成できた(今後とも積極的に推進) B：概ね達成できた(改善すべき課題がある) C：やや不十分(事業の見直しが必要) D：不十分(抜本的な改善が必要)